



岡本真利子
議員
(政清会)

問

近年、人口減少・少子高齢化により除排雪作業の担い手不足が深刻化し、冬期間における住民の生活に著しい支障をきたしている。住民が快適に日常生活を送ることができるよう、高齢者や障がい者の除排雪支援や児童生徒が安全で安心して通学するため、のきめ細やかな除排雪を行うことは町の責務である。以下の点について伺う。

- (1) 本年度の除排雪体制の改善策。
- (2) 国道、道道との除排雪の連携。
- (3) 高齢者等世帯に対する除排雪対策。
- (4) 歩道除雪の迅速な対応と拡充。

町長 (1) 本年度から郊外地に住する町民の方に除雪モニターとして協力をいただき、その地域の降雪量や吹雪の状態を電話で確認する仕組みづくりを行った。
(2) 各道路管理者と、路面管理や除雪体制、除雪方法などの情報交換や出勤予定時刻などの連携を密にし情報を共有している。

問 今冬の除雪体制の強化について

答 除雪モニターの仕組み導入により適期に迅速な対応が可能となると考えている

(3) 公区が主体の「協働のまちづくり支援事業の雪かき支援」や社会福祉協議会実施の「歳末助け合い特別除雪サービス」を行っている。今後、現状分析を行うとともに、地域住民の方々との協働による除雪サービスやボランティア活動に対する支援のあり方などを検討していきたい。



江陵高校生による除雪ボランティア活動の様子

(4) 車道除雪完了後に速やかに歩道の除雪を行い、児童生徒が安全に登下校できる歩道の確保に努めている。

問 オレンジリボン運動の推進について

答 幕別町要保護児童対策地域協議会で速やかな対応を心がけている

問

厚生労働省は毎年11月を児童虐待防止推進月間に定め、オレンジリボンをシンボルマークにして、全国において児童虐待防止運動を推進している。しかし、児童虐待についての相談件数は依然として増え続け社会全体の重要な課題と思われる。以下の点について伺う。

- (1) 本町における近年の相談件数。
- (2) こんにちは赤ちゃん事業の状況。
- (3) 子育て世代包括支援センター（日本版ネウボラ）の推進状況。

町長 (1) 児童虐待相談件数は次表のとおり。

年度	件数
H 24	4件
H 25	7件
H 26	4件
H 27	7件

※H 27 は11月までの状況

いる。

(2) 本町では、生後28日を経過しない乳児を対象に保健師が全戸訪問により新生児訪問指導を実施し、母子の健康状態を把握するとともに、新生児の発育、栄養、生活環境、疾病予防などの育児に関するさまざまな相談を受け、養育環境等の把握と助言を行い、養育支援が必要な場合においては、保健師や管理栄養士による専門的な相談支援を継続的に実施している。

(3) 設置はしていないが、母子保健事業や子育て支援事業を通じて、全ての妊婦、乳幼児の状況を継続的に把握し、妊娠期、出産直後から子育て期に至るまで切れ目なく支援する体制を築き、その充実・強化に努めている。

再質問 (1) 除排雪は目視や経験で管理する時代から新技術（ハイテク）の導入をする時代に来ていると感じるがその考えは。

(2) 妊娠から育児までを切れ目なくサポートする「子育て世代包括支援センター」が必要と考えるが。

答 (1) 先進的な機械については予算的な制約もあるが、今後、研究を進めたい。

(2) 一番最初に相談を受けた担当でワンストップという意識で取り組んでいる。